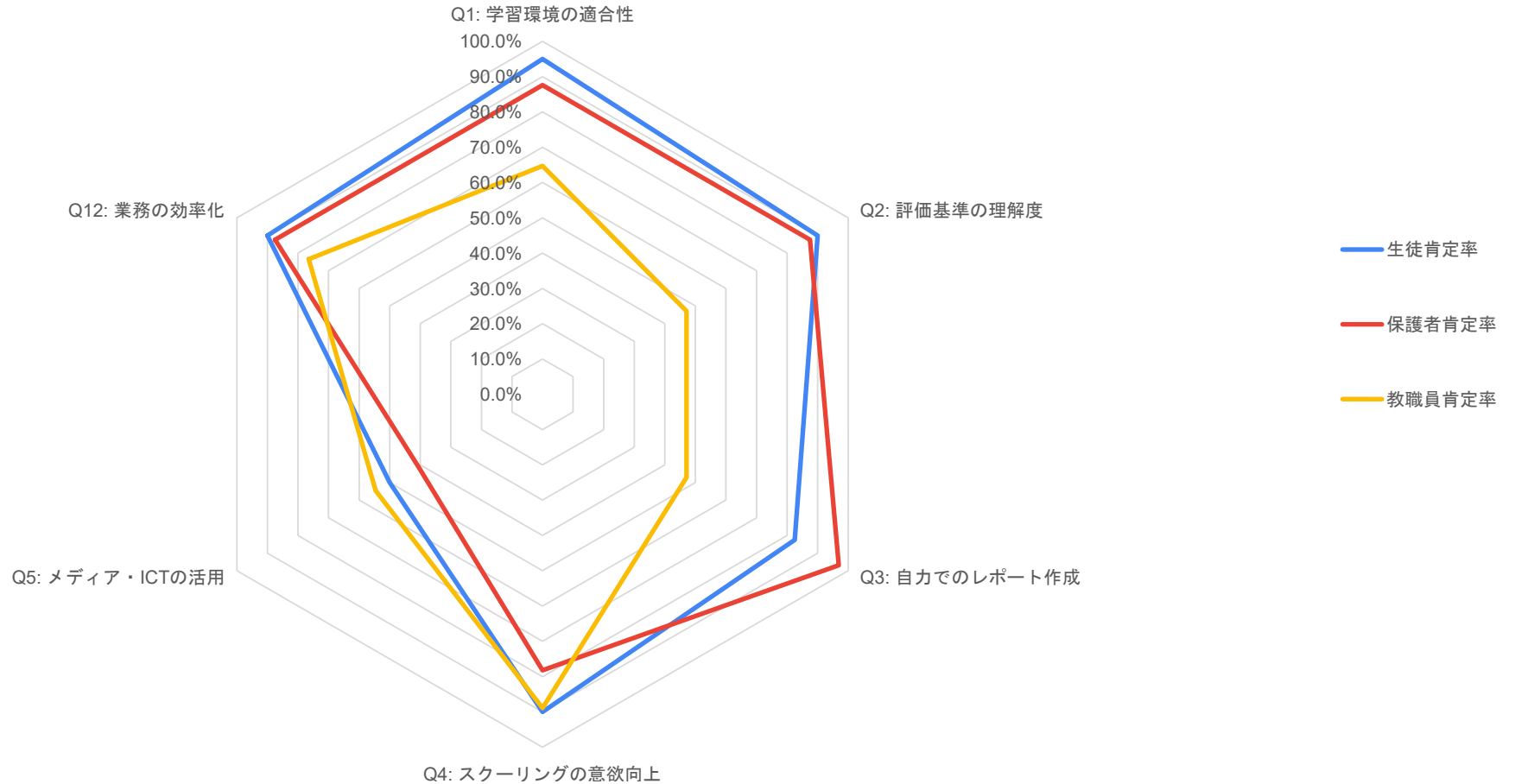


## 生徒、保護者と教職員の認識のズレ



質問内容（要約）	生徒肯定率	保護者肯定率	教職員肯定率
Q1: 学習環境の適合性	95.0%	87.6%	64.7%
Q2: 評価基準の理解度	90.0%	87.5%	47.1%
Q3: 自力でのレポート作成	82.5%	96.9%	47.1%
Q4: スクーリングの意欲向上	90.0%	78.2%	88.9%
Q5: メディア・ICTの活用	50.0%	40.7%	54.6%
Q12: 業務の効率化	90.0%	87.5%	76.5%

### 認識のギャップと分析のヒント

Q1: 生徒・保護者は満足。教職員は現状に満足せず改善意欲が高い。

Q2: 生徒と保護者はほぼ一致。ガイダンスが機能している。教員視線では理解促進が必要とみている。

Q3: [最大差] 保護者は「自力でやっている」と信頼（楽観）しているが、教職員は実態を厳しく見ている。

Q4: 生徒・教職員は効果を実感。保護者への成果の可視化が今後の鍵。

Q5: [共通課題] 全体的に低調。活用のハードル（ID管理等）に課題あり。

Q12: 外からは「順調」に見えるが、内部ではまだ負担感が強い。